



2020年9月30日

Vol
140

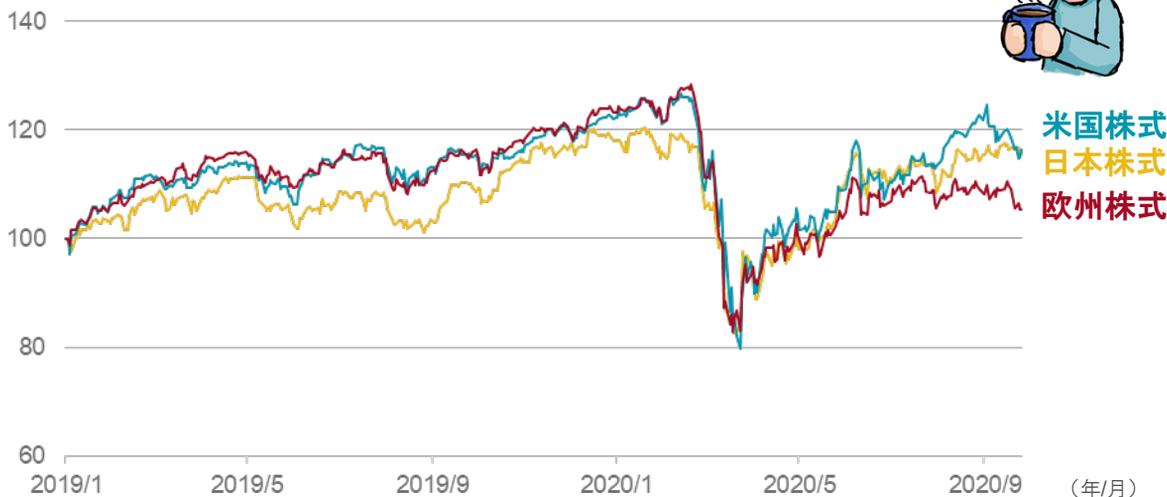
投資信託に起こっている興味深い事象とあらためて 押さえておきたいポイント

依然予断を許さない状況が続いているものの、各国で経済活動の再開が進んでいます。主要国・地域の景気先行指数は改善傾向にあり、世界景気についても4-6月期に底を打ち、回復基調になるとの期待が広がっています。主要国・地域の株価指数も、3月下旬以降は上昇に転じて*おり、「コロナ・ショック」によってヒヤリとしたものの、足もとでやっと一息つくことができたと感じている方は少なくないのではないのでしょうか。

さて今回は、コロナ禍を経て、投資信託に起こっている興味深い事象についてご紹介します。

* 2020年9月25日現在

● 日米欧の代表的な株価指数の推移



期間：2019/1/1～2020/9/25(日次) グラフ起点を100として指数化
 日本株式：日経平均株価、米国株式：NYダウ30種、欧州株式：STOXX欧州600指数(すべて現地通貨ベース)
 出所：信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成
 ※データは過去のものであり将来の運用成果などを約束するものではありません。

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

日興AMファンドアカデミー



日本の投資信託、その“ナカミ”を分析してみると…

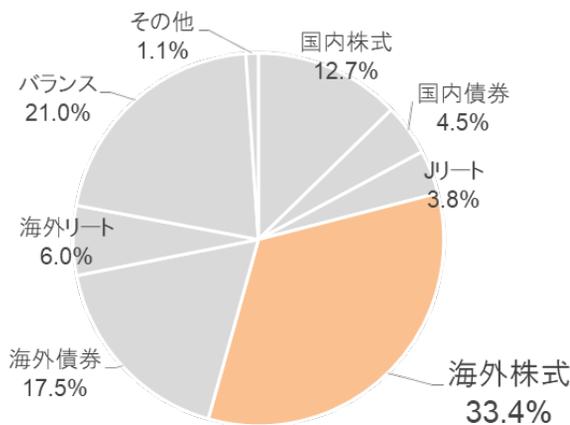
図1は、上場投信(ETF)を除く公募投信の残高を資産別に表したものです。2020年8月末時点で最も比率の高い資産は海外株式となっており、全資産に占める比率は33.4%です。2019年12月末時点が28.5%でしたから、足もとでは5ポイント近く比率が高まっています。

図2は、2020年(1月～8月末)の資金純流入額の累計を資産別に表したものです。海外株式には累計1兆6,209億円が純流入しており、公募投信全体への純流入額の9割超を占めています。

図1,2より、コロナ禍を経て、投資信託を通じ多くの投資家が海外株式へ資金を振り向けたことが分かります。投資の世界では、ホームバイアス(投資先を決める際に自国の資産を選好してしまうこと)がかかりやすいといわれています。にもかかわらず、国内株式を大きく上回る資金が海外株式に流入していることは、興味深い事象です。

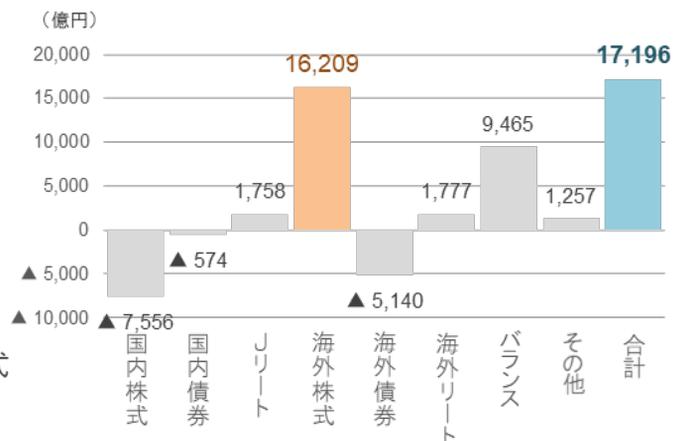
●公募投信*1の資産別残高【図1】

2020年8月末時点



●公募投信*1の資産別資金純流入額*2【図2】

2020年1月～8月の累計



*1公募投信から上場投信(ETF)を除いています *2資金純流入額は、設定額－解約額で算出しています (出所)Fundmarkのデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

■当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

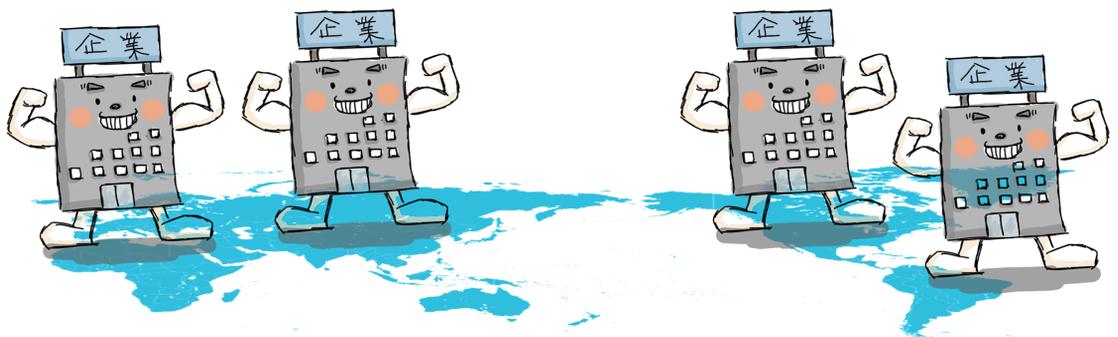


海外株式に投資をするときに持つべき視点とは

8月までに海外株式に資金が流入したのは、米国のハイテク株を中心とした株価上昇の勢いが背景にあると考えられます。でも、「上がっているから買う」というのはお勧めできません。海外株式に投資をする際は、以下のような視点を持つことが大切だと考えています。

ふり返ってみると、私たちの暮らしは革新的な製品やサービスによって便利に快適に進化してきました。投資という観点でも、世界を一変させるようなイノベーションを起こしてきた企業への投資は、長期で見ると大きなリターンを生み出してきました。これから世界を変える可能性を秘めた企業として、多くの方は海外の企業を思い浮かべるのではないのでしょうか。とはいえ、海外企業の株式に直接投資するのは、以前に比べるとハードルが下がったものの、決して容易なことではないようです。投資信託という仕組みを活用すれば、大きなストレスなく海外株式に投資することができます。あまり注目はされていないようですが、投資信託「ならでは」のメリットのひとつです。

つまり、投資信託「ならでは」の仕組みを有効に活用し、世界を変える可能性を秘めた企業群に、長期で投資をしていくという視点を持つことが大切だと日興アセットは考えています。

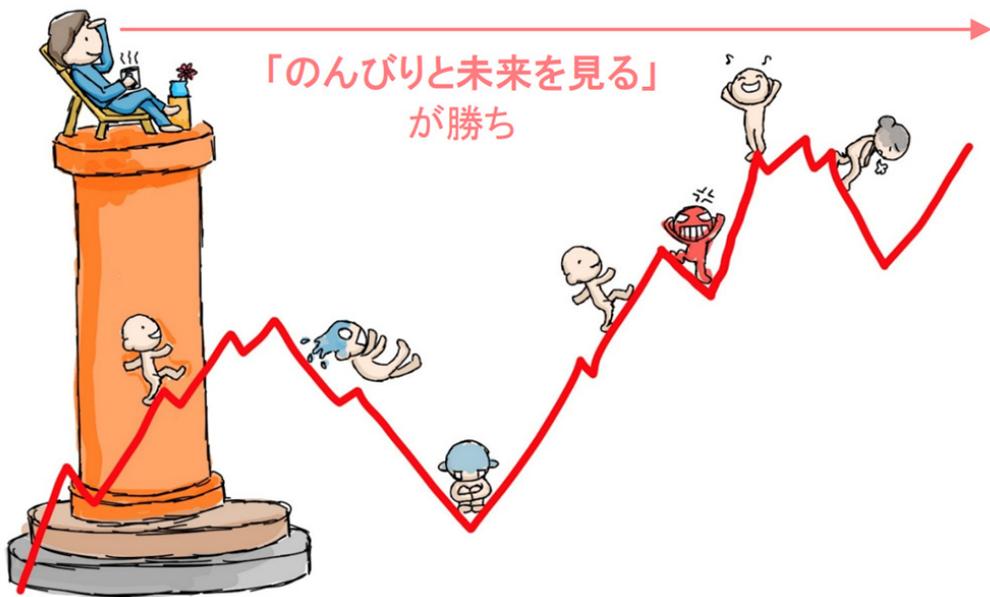




コールセンターからの小さなよみもの

やはり、大切なのは「THINK BIG」

もちろん、常に上がり続けることはありませんし、時に大きく下げる局面もあるはずで
す。そんなときの合言葉は、「THINK BIG—大きく考えよう、どっしり構えよう」です。
さまざまなニュースを受け日々マーケットは変動するけれど、世の中を大きく変える
可能性がある企業群に、投資信託という仕組みを活用して、長い目で投資を続け
るというのが、「結果賢い」作戦だと信じる。投資信託を使って、資産運用をする私
たちは、投資する企業群が創る将来を信じ、のんびりと投資をすることをオススメし
ます。



nikko am

2 コールセンター
0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00



■ 当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

日興AMファンドアカデミー